

乳幼児と保護者の方を対象とした子育てサロン、育児相談

社会福祉法人 東京恵明学園

1.法人・施設の概要

◇所在地

東京都

◇法人設立日

昭和 21 年

◇法人実施事業

乳児院… 1 箇所

児童養護施設… 1 箇所

◇法人の理念・経営方針

ミッション

『応援します、子どもとその家族の「しあわせ」と「希望」』

ビジョン

- ・児童福祉に貢献します。
- ・子育て支援のキーステーションを目指します。
- ・幸せな生活を送ることができるよう支援します

◇施設名

東京恵明学園乳児部

東京恵明学園児童部

◇施設種別及び利用定員

乳児院（定員：35 名）

2.活動内容

◇活動テーマ

「虹色ひろば」

◇活動開始年

平成 16 年 6 月

◇活動の対象者

地域の乳幼児（0 歳～3 歳未満）と保護者



サロン活動の様子

◇活動実施の背景、実施に至った理由

当園では、ショートステイ事業を通して、地域の子育て家庭との関わりは行っていたが、乳児院に平成 12 年度に家庭支援専門相談員が配置になったこともあり、地域の子育て支援への取り組みを具体的に進めていくことになった。近隣の市の子育て支援の見学などを行い、地域の子育て支援の状況の把握に努めた。青梅市での支援事業への参加は現在も継続している。地域の母子との交流を通し、子育て中の母親たちが、日々子どもと向き合っている中で、子どもの育ちを喜びながらも、さまざまな戸惑い

や孤立感を感じている印象を受け、子育て家庭へのサポートの必要性について理解を深めることができた。

平成 15 年までの活動を基に、平成 16 年度地域支援委員会を立ち上げ、乳児院としての地域支援の必要性の再確認、具体的な支援方法について検討した。地元の方への理解も深めてもらえるよう乳児院の見学会を 2 回実施して、地域の親子が気軽に来園して、過ごすことができるよう「虹色ひろば」を開催することにした。

◇実施内容

平成 16 年 6 月より、月 1 回（第 2 火曜日、10：00～11：30）で開催をした。年 2 回の日曜日に「サンデースペシャル」として開催し、平日では来園が難しい父親の参加も呼びかけ、父親や祖父母の参加も見られた。スタッフは、相談員、保育士、看護師、栄養士で担当した。平成 20 年度以降は、月 2 回（第 2、3 火曜日、10：00～12：00）で開催をしている。参加は 7～8 組程度。

内容は、3 歳未満のお子さんと保護者の方を対象に、自由遊び、手遊び、ショートステイの案内、育児相談などを行っている。手遊びなどは、お子さんの月齢に合わせて行うなど、参加者の様子に合わせて対応している。保護者同士の交流が深まるよう、その間スタッフが子どもたちと交流したり、時にはスタッフがファシリテーターをして子育ての話題について懇談を進めることもある。また、折り紙やお絵かきなど季節の行事に合わせて製作を予定することもある。最後には、絵本の読み聞かせや手遊びをし、参加者で輪になり「さよならあんころもち」を歌って終了としている。

◇活動の効果

当初は、参加者が少なく広報活動などに苦慮したが、さまざまな案内を通し、定期的に来園してくれる親子が多くなっている。空間的にゆったりと過ごすことができることは好評である。友人を誘って来園したり、子ども家庭支援センターや保健師などの紹介での参加もある。ショートステイの利用前に、子どもが園に慣れる目的で参加する場合や、ショートステイ利用をきっかけに「虹色ひろば」に参加する方もいる。

スタッフも地域の親子と関わり、子育て中の保護者の思いを感じ、子育てについても考える機会となっている。さらに、職員会議等で「虹色ひろば」の報告をし、地域の子育て支援の状況を共有することで、乳児院での養育内容や役割を考える機会にもなっている。

現在、子ども家庭支援センターなどの関係機関を通し、「虹色ひろば」を紹介してもらえることが多くなっている。

◇今後の展開

現在、月 2 回の開催で時間も午前中の 2 時間と限られている。自由に利用できる「ひろば」を考えると、回数や時間についても検討していく必要があり、それに伴いスタッフの拡充も不可欠である。

内容については、遊びを中心に展開しており、ゆとりがあるプログラムが親子にとって「ホッとできる空間」となっていると思われるが、参加者の要望などを積極的に取り入れ、親子にとってより充実した内容にできるよう検討していく必要がある。離乳食や昼食の持参の希望も出ており、園内での飲食についても検討する必要がある。

平成 16 年度から始め、利用状況を見な

がら継続をし、現状の方法を維持する形で行ってきたが、将来的な展望も含め、見直しの時期になっている。利用者の意見や地域の子育て支援の状況やニーズを把握して、乳児院における地域支援の充実に努める必要があると考えている。